

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」  
実社会対応プログラム最終評価結果表

課題	人口減少地域社会における安心しうるケア・システムの構築と生活基盤の整備
研究テーマ名	地域特性が生きる医療介護総合計画の評価基準の確立——小児在宅医療を起点にして
研究代表者	加藤 智章
所属機関・部局・職	北海道大学・大学院法学研究科・教授
研究成果の総合評点：B	
研究成果の評価に係る所見	
<p>北海道における小児「在宅」医療の重要性を認識し、この状況に関する内外の状況を調査し、北海道における持続的な人的ネットワークを構築できたことは評価できる。</p> <p>ただし、調査結果を見るかぎりでは、他都府県におけるこの点に対する問題意識が低く、結果的に、全国的状況との比較で北海道の状況を特徴づけることができていない。研究者の問題意識は十分理解できるものであり、また、おこなわれた調査にもそれなりに見るべきものがあるが、当初の研究計画が達成されたとは思えない。市町村間の差異がヒアリングによって明確にはならなかったことも残念である。</p>	

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記のとおり。

- S. 研究目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
- B. 研究目的に照らして、十分ではなかったが一応の成果があった
- C. 研究目的に照らして、十分な成果があったとは言い難い